

心理学研究法(2313)			武野 全恵		併修科目・必修		
					3年		
					OT火曜2限		
授業のねらい	心理学の主要な内容とも言える感覚・知覚・学習・認知・人格・社会について、実験・調査などの実証的研究法を学ぶ。一般的に心理学の研究では何のために研究するのか研究の目的をはっきりさせ、その方法を考え、その結果を分析していく。本科目では、それらの技能と共に、データを用いた実証的な思考方法を身につけていくことが主要な目的である。また、結果の分析にあたっては、統計学の知識、コンピュータリテラシーも必要であり、その習得も併せてめざす。さらに、それらの研究法に内在する問題点も検討し、心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)、データを用いた実証的な思考方法、研究における倫理について理解する。						
教科書・資料	大学指定のテキストを使用するが、他に参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。						
設 題	レポ ー ト	1	心理学の研究法のうち、面接法と質問紙調査法について述べよ。	清書	9月16日(火)		
	(ポイント)		心理学をはじめとする人間科学の研究法として、面接法、質問紙調査法がある。それぞれの方法の特徴や問題点、準備・実施上の留意点などについてまとめること。				
	レポ ー ト	2	心理学の研究法のうち、観察法と実験法について述べよ。	清書	11月4日(火)		
	(ポイント)		心理学をはじめとする人間科学の研究法として、観察法、実験法がある。それぞれの方法の特徴や問題点、準備・実施上の留意点などについてまとめること。				
	科目終了試験		学修のポイント3 サンプルングについて 学修のポイント4 人間科学における研究倫理について		科目終了試験 詳細は、後日発表		
期 末 試 験 ・ スクーリング修了試験	詳細は、後日発表						
1	オリエンテーション 面接法と質問紙調査法について 3200字レポート「面接法と質問紙調査法について述べよ。」 (9月16日(火)提出)						
2	前期の研究法で行った研究の発展 実験2を考えてみよう						
3	心理学における研究倫理について 1200字レポート 学修のポイント4「人間科学における研究倫理について」 (9月30日(火)提出)						
4	実験2 準備①						
5	サンプルングの種類と方法 1200字レポート 学修のポイント3「サンプルングについて」 (10月14日(火)提出)						
6	実験2 準備②						
7	観察法と実験法について 3200字レポート「観察法と実験法について述べよ。」 (11月4日(火)提出)						
8	実験2 データ集め						
9	実験2 データ集め						
10	実験2 データ集め						
11	実験2 データ集め						
12	分析						
13	分析						
14	科目修了試験対策						
15	科目終了試験						
	期末テスト						
成績評価	出席率	30点	80%以上、出席すること。不足した場合は一般スクーリングへの参加となります。				
	期末試験	50点	持ち込み:可、論述式				
	授業内評価	20点	提出状況、授業態度を考慮して評価する。				
備 考	授業中にレポートを作成する時間を設けます。その時間を有効に使い、早く提出をすることを心がけてください。						
	レポート・学修のポイントのべ切は厳守すること。期限を守れなかった場合、提出物が減点となります。出席は、80%以上が求められます。80%を下回ることになれば、課題の提出及び一般スクーリングへ参加することになります。また、欠席するとその回は態度の評価ができませんので、授業態度点も減点となります。そのため、できるだけ欠席をしないよう体調管理等に気を付けてください。						

2025年度後期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅲ(発達障害Ⅱ)	授業形態	講義・(演習)・実習	学科・年次 曜日・時限	OT・3年 火曜・3、4限
担当教員	伊藤 大貴				
授業概要	作業療法士は発達障害に対し「あそび」を通して機能改善を目指すことができる唯一の職種です。そのために、各疾患による凹凸を理解し、対象者にとって必要な「あそび」を選択できるようになることが必要になります。この授業では、実際にあそびを体験しながら、どういった機能を伸ばすことができるのか分析してもらいます。そのほか、発達障害領域における作業療法では対象者やその家族に対する支援も重要です。どういった支援が必要なのか、対象者の成長ステージごとに学んでいきましょう。				
学習目標	・感覚統合療法について自身の言葉で簡単に説明できる ・各疾患における障害特性を理解し、簡単に説明できる。 ・各疾患における治療的アプローチを理解し、簡単に説明できる。 ・リスク管理を踏まえたレクリエーションをチームで立案、事前準備、実施することができる。				
回数					担当教員
1回目	オリエンテーション 感覚統合機能に対するアプローチと支援の実際 P70～91				伊藤 大貴
2回目	脳性麻痺の概要と評価、姿勢と運動へのアプローチ P124～149				伊藤 大貴
3回目	脳性麻痺に対する治療の実際① P152～167				伊藤 大貴
4回目	脳性麻痺に対する支援(実技)、感覚統合の視点にたったアプローチ(センサーバッグを作ろう)				伊藤 大貴
5回目	知的障害に対する概要と治療の実際① P170～190				伊藤 大貴
6回目	知的障害に対する支援(実技)、感覚統合の視点にたったアプローチ(バスボムを作ろう)				伊藤 大貴
7回目	デュシェンヌ型筋ジストロフィーの概要と治療の実際 P206～236				伊藤 大貴
8回目	二分脊椎の概要と治療の実際 P238～250				伊藤 大貴
9回目	分娩麻痺の概要と治療の実際 P252～261 ※単元テスト				伊藤 大貴
10回目	服薬の基礎知識、医療的ケア児とその家族 P264～280				伊藤 大貴
11回目	特別支援教育の概要と作業療法士の実際、子どもの虐待のOT、保護者対応 P282～302				伊藤 大貴
12回目	レクリエーション立案、事前準備①				伊藤 大貴
13回目	レクリエーション立案、事前準備②				伊藤 大貴
14回目	レクリエーション立案、事前準備③				伊藤 大貴
15回目	レクリエーション立案、事前準備④				伊藤 大貴
16回目	レクリエーション立案、事前準備⑤				伊藤 大貴
17回目	レクリエーション立案、事前準備⑥				伊藤 大貴
18回目	レクリエーション実施 ※パフォーマンス評価				伊藤 大貴
19回目	遊び(ものづくり系)の立案、準備①				伊藤 大貴
20回目	遊び(ものづくり系)の立案、準備②				伊藤 大貴
21回目	遊び(ものづくり系)の立案、準備③				伊藤 大貴
22回目	遊び(ものづくり系)の立案、準備④				伊藤 大貴
23回目	遊び(ものづくり系)の実施				伊藤 大貴
24回目	遊び(ものづくり系)の実施 ※パフォーマンス評価				伊藤 大貴
25回目	遊び(アクティブ系)の立案、準備①				伊藤 大貴
26回目	遊び(アクティブ系)の立案、準備②				伊藤 大貴
27回目	遊び(アクティブ系)の立案、準備③				伊藤 大貴
28回目	遊び(アクティブ系)の立案、準備④				伊藤 大貴
29回目	遊び(アクティブ系)の実施				伊藤 大貴
30回目	遊び(アクティブ系)の実施 ※パフォーマンス評価				伊藤 大貴
教科書及び参考書	第3版 作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 メジカルビュー				
成績評価	単元テスト20% パフォーマンス評価30% 期末テスト50% 欠席3点、遅刻は1点減点。 また、学生心得第5章、第21条第1・2項のルール等を違反している場合には減点とする場合がある。 単元テストは1回目～8回目を範囲とします。期末テストは全範囲ですが、単元テストの内容や授業内でポイントとして伝えた部分を中心に出題する予定です。 パフォーマンス評価はレク・遊びの準備、実施に対する主体性、役割に応じた動きができたか、ルーブリック評価を用いて個別で評価します。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
前期は発達過程や発達障害領域における評価が中心でした。後期では具体的な疾患の特徴や、作業療法の実際に触れていきます。複数の疾患に触れるため、混乱しないよう予習・復習をするようにしましょう。授業内で分からないことが有れば、事前にアポイントを取ったうえで、オフィスアワーを利用し質問しにきてください。発達障害領域に関しては、臨床実習で触れる機会は少ないと思いますが、国家試験では頻出のジャンルです。また、発達障害を抱えながら社会で活躍している方も多く、そういった方達と接する際のコミュニケーション能力も身につけることができます。授業を通し、正常発達から逸脱した障害児に対する作業療法の実際を学び、実践能力を身につけましょう。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
約10年間、急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として携わる。小児～高齢者まで幅広い世代に作業療法を提供してきた。現在は研究活動もしつつ、作業療法士の学生支援に携わっている。学会発表も多数実施している。 臨床現場でのエピソードを交えつつ、参加型・体験型の授業を展開していきます。					

2025年度後期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅰ(身体障害Ⅲ)	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次 曜日・時限	OT・3年 水曜・1、2限
担当教員	石田 敦子 ・ 伊藤 大貴				
授業概要	身体障害領域において作業療法分野で関わる疾患について、疾患特性と疾患ごとの作業療法評価、治療法について学習する。評価実習、総合臨床実習で患者様を評価、治療し、報告を行う方法を学ぶ。				
学習目標	1. 疾患の病態について説明することができる 2. 疾患に必要な評価項目を挙げ、実際に行い、結果をまとめることができる 3. 疾患特性に応じたADL方法を実演できる 4. 治療計画の立案を行い、分かりやすく発表することができる				
回数					担当教員
1回目	オリエンテーション 脊髄損傷の概要と種類 ①P214～215、⑤				伊藤 大貴
2回目	脊髄損傷の評価 ①P216～219(ASIA)、⑤				伊藤 大貴
3回目	脊髄損傷の評価 ①P216～219(フランケル分類・ザンコリ)				伊藤 大貴
4回目	脊髄損傷における作業療法の評価解釈と目標設定 ①P219～221				伊藤 大貴
5回目	脊髄損傷における作業療法プログラム1 ①P221～232				伊藤 大貴
6回目	脊髄損傷における作業療法プログラム1 ①P221～232				伊藤 大貴
7回目	脊髄損傷における治療の実際(起居・いざり)1 実技				伊藤 大貴
8回目	脊髄損傷における治療の実際(移乗・移動)2 実技				伊藤 大貴
9回目	脊髄損傷における治療の実際(更衣・トイレ・食事)1 実技				伊藤 大貴
10回目	脊髄損傷における治療の実際(入浴・整容・環境整備)2 実技				伊藤 大貴
11回目	脊髄損傷のまとめ(ASIA、フランケル分類、ザンコリ、ADL)				伊藤 大貴
12回目	症例検討1(脊髄損傷のグループ発表、症例提示)			単元テスト	伊藤 大貴
13回目	症例検討2(グループディスカッション・役割分担・調査)				伊藤 大貴
14回目	症例検討3(グループディスカッション・調査・まとめ)				伊藤 大貴
15回目	症例検討4(グループ内で調査した内容を発表)			パフォーマンス評価	伊藤 大貴
16回目	脊髄小脳変性症 ①P392～399、④				伊藤 大貴
17回目	筋萎縮性側索硬化症 ①P400～406、④				伊藤 大貴
18回目	骨折概要 ①236～241 ②適時 ⑤312～318				伊藤 大貴
19回目	上肢骨折 ①242～247 ②適時 ⑤319～327				伊藤 大貴
20回目	下肢・脊椎骨折 ①247～252 ②適時 ⑤248、328～335				石田 敦子
21回目	口頭試問①				石田 敦子
22回目	悪性腫瘍 ①460～466				石田 敦子
23回目	末梢神経損傷 ①278～300 ②適時 ⑤276～299				石田 敦子
24回目	手指腱損傷 ①302～314 ②適時 ⑤128～145				石田 敦子
25回目	腱板損傷 ①314～320 ②適時 ⑤100～113				石田 敦子
26回目	口頭試問②				石田 敦子
27回目	熱傷 ①321～332 ②適時 ⑤306				石田 敦子
28回目	切断と義肢 ①333～350 ②適時 ⑤304				石田 敦子
29回目	口頭試問③				石田 敦子
30回目	糖尿病				伊藤、石田
教科書及び 参考書	①標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版/医学書院 ②リハビリテーション基礎評価学 第2版/羊土社 ③病気がみえる3(糖尿病・代謝・内分泌)、④病気がみえる7(脳・神経)、⑤病気がみえる11(運動器・整形外科)/メディックメディア				
成績評価	単元テスト:20点 パフォーマンス評価:10点 口頭試問:30点 期末テスト:40点 欠席は3点、遅刻は1点減点とします。 単元テストは、1回目～10回目を範囲とします。パフォーマンス評価は、脊髄損傷の残存機能とADLに関するグループワークをしてもらい、それを発表してもらいます。そのグループワークでの主体性、発表の質を個別に評価していきます。期末テストは単元テストや口頭試問、授業内でポイントとして伝えた部分を中心に出题する予定です。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
この授業では、身体障害分野の疾患について病態の確認や疾患ごとの評価、治療方法について学習を行い、治療技術を習得することができます。学生同士で評価・治療をしながら、臨床実習に向けて技を磨いてほしいと思います。自己学習としては、教科書該当範囲の予習復習やグループワークの際の課題分担などが推奨されます。わからない部分については、アポイントメントをとり積極的に質問に来てください。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
総合病院で急性期病棟、回復期病棟、療養病棟、外来と病期を継続的に追って治療した。訪問看護ステーションでは施設、在宅の地域の対象者や家族が笑顔になれる生活を考え、作業療法を実施してきた。(石田) 約8年間、急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として携わる。そのなかでも、高次脳機能障害に対する評価・治療に対し中心的に介入し、学会発表も多数実施している。(伊藤) 対象者・家族のリアルなニーズとデマンドに対して、どのような治療を行ってきたのかエピソードトークも交えてお伝えします。					

2025年度後期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	生活環境論	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	水曜・3限
担当教員	石田 敦子				
授業概要	超高齢社会により入院病床や医療費は逼迫しており、住み慣れた地域で病気や障害があっても最期まで暮らしたいという人々の願いから、住環境整備・支援機器に関わる作業療法についての知識が必要となります。疾患特性を理解しそれらがどのような機能障害を引き起こすのか予測できるようになる事、また疾患を抱えながらも環境を調整する事で再びやりたい作業を可能にする方法を身につけましょう。				
学習目標	・福祉用具の適応、利点、使い方を説明できる ・疾患特性を理解し、起こりうる障害や福祉用具の適性について説明できる ・地域における住環境整備のポイントを列挙できる				
回数					担当教員
1回目	福祉用具概論 (p.2-46)				石田 敦子
2回目	機能障害別福祉用具① 筋力の低下① 体幹・下肢の筋力低下・随意運動障害 (p.48-60)				石田 敦子
3回目	機能障害別福祉用具② 筋力の低下② 上肢・手指の筋力低下・随意運動障害 (p.61-72)				石田 敦子
4回目	機能障害別福祉用具③ 関節可動域の制限、協調性障害 (p.73-98)				石田 敦子
5回目	機能障害別福祉用具④ コミュニケーションの障害、座位保持能力の障害 (p.99-123)				石田 敦子
6回目	なごや福祉用具プラザ見学(10月8日③④限)				石田 敦子
7回目	なごや福祉用具プラザ見学(10月8日③④限)				石田 敦子
8回目	住環境整備 (p.250-268) 単元テスト (p.2-123)				石田 敦子
9回目	疾患・障害別の福祉用具① 脳血管障害、片麻痺 (p.126-141) 単元テスト (p.2-123)				石田 敦子
10回目	疾患・障害別の福祉用具② 脊髄損傷、頸髄損傷 (p.142-159)				石田 敦子
11回目	疾患・障害別の福祉用具③ 高齢者、パーキンソン病、認知症 (p.168-176、237-244)				石田 敦子
12回目	疾患・障害別の福祉用具④ 関節リウマチ、切断、ALS(p.177-216)				石田 敦子
13回目	疾患・障害別の福祉用具⑤ デュシェンヌ型筋ジストロフィー、脳性麻痺 (p.217-236)				石田 敦子
14回目	レポート作成				石田 敦子
15回目	トピックス (p.272-295)、まとめ レポート提出				石田 敦子
教科書及び参考書	ゴールド・マスター・テキスト福祉用具学/メジカルビュー				
成績評価	単元テスト(20%)、レポート課題(20%)、期末試験(60%) 欠席・遅刻は減点				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
1～6回目の授業で症状別の福祉用具と住環境整備を学習したあと、なごや福祉用具プラザへ行き、最新の福祉用具を始め実際の住宅でどのような福祉用具が備えられているかを見学します。9回目からは疾患・障害別の福祉用具の学習に入ります。9回目の授業時にレポート課題と症例を発表します。授業内での学習以外に計画的にレポートを進めておいてください。15回目にレポートを最終提出していただきます。最終提出までは何度でも指導・再提出が可能ですので、分からない部分などは早めに解決するようにしてくださいね。 授業前後や空きコマの時間に提出物の相談対応や質問対応をします。事前にアポイントメントを取って臨むようにしてください。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
訪問看護ステーションに7年従事し、本人・家族の住みやすい環境を考案してきました。対象者の疾患、症状、性格に合わせた生活環境について、ケアマネージャーや医療職、介護職などによる専門職チームで議論し、障害と生活の知識を組み合わせた作業療法士ならではの視点で助言や意見を行いました。経験した症例なども出しながら授業を進めていきます。					

社会・集団・家族心理学(家族)(3720)		橋本香織		併修科目・必修	
				3年	
				OT木曜1限	
授業のねらい	人間は、生涯を通じて他者との関係の中で生きていく。その最も身近な人間関係の中のひとつに「家族」がある。家族を普遍的固定的な存在としてとらえるのではなく、変動可能な動的な存在として、あるいは開かれたシステムの一部としての家族という味方を学ぶ。また家族が今後どのように変動を遂げる可能性があるのかについて知見を深める。				
教科書・資料	大学指定のテキストを使用するが、他に参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。				
設 題	レポ ー ト 1	思春期のわが子を育てる際の親の留意点について述べよ	清書	〇月〇日(〇)	
	(ポイント)	思春期の発達課題の理解を踏まえた上で、現代を生きる子どもの成長・発達を支えるために、親が意識すべき関わり方を、心理学的視点から考察する。			
	レポ ー ト 2		清書		
	(ポイント)				
	科目終了試験	学修のポイント・社会変動がもたらす家族の変化・発達について述べよ 学修のポイント・結婚の現代的意味について述べよ 学修のポイント・子育てには不安がつきものであるが、何が育児不安を強めているか述べよ		科目終了試験〇月〇日(〇) 実施予定	
期 末 試 験 スクーリング修了試験	詳細は、後日発表				
1	オリエンテーション				
2	家族とは何か 日本の近代家族の歴史				
3	家族とは何か 家族の多様性 学修のポイント1 1200字レポート作成				
4	結婚について (1)				
5	結婚について (2) 学修のポイント2 1200字レポート作成				
6	夫婦のコミュニケーション				
7	子育てについて (1)				
8	子育てについて (2) 学修のポイント3 1200字レポート作成				
9	家族関係を考える				
10	子育てをする親としての成長・発達について				
11	設題1 3200字レポート作成				
12	家族のライフサイクル (1)				
13	家族のライフサイクル (2)				
14	振り返り これからの「家族」について考える				
15	科目終了試験				
	期末テスト				
成績 評価	出 席 率	30点 80% 以上、出席すること。不足した場合は一般スクーリングへの参加となります。			
	期 末 試 験	50点 持ち込み:可、論述式			
	授業内評価	20点 提出状況、レポート内容を考慮して加算する。			
備 考	授業中にレポートを作成する時間を設けます。その時間を有効に使い、早く提出をすることを心がけてください。				
	レポート・学修のポイントの締切を守ってください。本授業では、グループ活動を大切にします。主体的に参加することを期待します。互いの意見を尊重しながら学びを深めてください。				

2025年度後期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	医学情報処理学	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	木曜・2限
担当教員	伊藤 大貴				
授業概要	患者様を評価する際、現病歴や作業療法評価に加え、X線CT、MRIなどの画像も含めて、症状やリハビリテーション目標、プログラム立案を実施する必要があります。画像問題は国家試験にも頻出するため、画像から分かる疾患や予測される症状と合わせて理解することを目標に、授業に臨んでいきましょう。				
学習目標	・脳画像をMRIやCTから読影する方法について学び、高次脳機能障害と結びつけて簡単に説明できる。 ・脳画像、脊柱、上下肢、内臓についての画像診断ができるようになる。 ・心電図における異常波形を説明できるようになる。				
回数					担当教員
1回目	オリエンテーション 脳画像読影の基礎知識(序章)				伊藤 大貴
2回目	脳動脈領域、大脳の各領域分野の確認 P2～4				伊藤 大貴
3回目	脳血管障害、くも膜下出血、頭部外傷の脳画像の見方とCVAの基礎知識① P6～25				伊藤 大貴
4回目	脳血管障害、くも膜下出血、頭部外傷の脳画像の見方とCVAの基礎知識② P25～35				伊藤 大貴
5回目	脳血管障害、くも膜下出血、頭部外傷の脳画像の見方とCVAの基礎知識③ P35～42				伊藤 大貴
6回目	認知症における脳画像のチェックポイントと認知症の分類について P43～45				伊藤 大貴
7回目	脊柱疾患、頸椎/腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症の画像診断 P48～63 ※単元テスト①				伊藤 大貴
8回目	脊柱疾患、腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症の画像診断 P64～78				伊藤 大貴
9回目	肩甲骨・鎖骨・上肢の骨折における画像診断 P80～98				伊藤 大貴
10回目	下肢の骨折における画像診断 P99～120				伊藤 大貴
11回目	内臓(肺)における画像診断 P126～140				伊藤 大貴
12回目	心電図の基本について 病気がみえる循環器 P56～74 ※単元テスト②				伊藤 大貴
13回目	心電図の読み取りのチェックポイント(心筋梗塞、心不全①) 病気がみえる循環器 P56～73				伊藤 大貴
14回目	心電図の読み取りのチェックポイント(心不全②) 病気がみえる循環器 P56～73				伊藤 大貴
15回目	まとめ				伊藤 大貴
教科書及び参考書	PT・OT基礎から学ぶ 画像の読み方 第3版/医歯薬出版株式会社 病気がみえる vol.7 脳・神経、vol.2 循環器、vol.11 運動器・整形外科 /MEDIC MEDIA その他随時、プリント等の配布を行う。				
成績評価	確認テスト:①20点、②20点 期末テスト:60点 欠席は3点、遅刻は1点減点とする。 また、学生心得第5章、第21条第1・2項のルール等を違反している場合には減点とする場合がある				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
身体障害領域において、患者様のCT画像やMRI画像から情報を読み取り、起こりうる症状を予測する力は必須です。また、国家試験においても頻出問題となっています。この講義では画像の読み方だけでなく、そこから今まで学んだ疾患や症状と合わせて理解することを目標とします。 講義を受けている中で、理解できないことがあるときには必ず質問をしてください。それでも理解できない場合は、放課後にアポイントメントを取り、理解できるよう行動しましょう。 画像問題は慣れや診るべきポイントがあります。聞きながら数をこなすことで、画像問題に対して苦手意識なく取り組めるようになると思いますので、あきらめないで理解できるように頑張りましょう。 7回目と12回目に確認テストを実施します。期末テストは全範囲ですが、授業内でポイントとして伝えた部分を中心に出题する予定です。テストの機会を利用し、知識の定着化に努めましょう。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
約8年間、急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として携わる。そのなかでも、画像診断を生かした高次脳機能障害に対する評価・治療に対し中心的に介入。学会発表も多数実施している。(伊藤)					

2025年度後期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅱ（精神障害Ⅱ）	授業 形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	木曜・3限、金曜・1限
担当教員	村谷 澄哉				
授業概要	精神科作業療法を提供する際には、治療の目的や治療構造を明確化することが大切です。また、治療者として対象者と関わる中で評価ができる距離感で関係を築く必要があるため、治療的対応方法についても適切に知る必要があります。本講義では、疾患別作業療法の状態評価ならびに回復段階ごとの治療目標と治療アプローチについて学びます。自身をどのように治療道具として活用できるか、考えながら受講してください。				
学習目標	① 各疾患を患うことによる生活機能について説明できる。 ② 各疾患に対する作業療法について説明できる。 ③ 各治療手技について説明、実施ができる。				
回数					担当教員
1回目	摂食障害と生活機能(①P.290-293)				村谷澄哉
2回目	摂食障害の作業療法(P.294-296)				村谷澄哉
3回目	物質関連障害と生活機能(①P.296-298)				村谷澄哉
4回目	物質関連障害と作業療法(①P.298-300)				村谷澄哉
5回目	パーソナリティ障害と生活機能(①P.300-302)				村谷澄哉
6回目	パーソナリティ障害と作業療法(①P.302-304)				村谷澄哉
7回目	自閉症スペクトラム障害と生活機能(①P.304-308)				村谷澄哉
8回目	自閉症スペクトラム障害と作業療法(①P.308-310)				村谷澄哉
9回目	注意欠陥多動性障害と生活機能(①P.311-313)				村谷澄哉
10回目	注意欠陥多動性障害と作業療法(①P.313-315)				村谷澄哉
11回目	神経認知障害と作業療法①(①P.316-319)				村谷澄哉
12回目	神経認知障害と作業療法②(①P.316-319)				村谷澄哉
13回目	単元テスト① 1～12回の振り返り				村谷澄哉
14回目	精神療法とは				村谷澄哉
15回目	行動理論・学習理論、行動療法について				村谷澄哉
16回目	認知行動療法(CBT)の基本概念				村谷澄哉
17回目	認知行動療法、認知再構成法(コラム法)について(実技)				村谷澄哉
18回目	アサーション・トレーニングについて				村谷澄哉
19回目	アサーション・トレーニングについて(実技)				村谷澄哉
20回目	社会生活技能訓練(SST)について				村谷澄哉
21回目	社会生活技能訓練(SST)について(実技)				村谷澄哉
22回目	元気回復行動プラン(WRAP)について				村谷澄哉
23回目	心理教育(統合失調症、気分障害、依存症)について				村谷澄哉
24回目	心理教育(実技)				村谷澄哉
25回目	認知リハビリテーションについて				村谷澄哉
26回目	社会認知リハビリテーション(SCIT)(実技)				村谷澄哉
27回目	リワークプログラム、就労支援				村谷澄哉
28回目	地域生活支援、精神科訪問				村谷澄哉
29回目	単元テスト② 14～28回の振り返り				村谷澄哉
30回目	まとめ				村谷澄哉
教科書及び参考書	① 精神障害と作業療法 病いを生きる、病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践/三輪書店 ② 作業療法学ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学/MEDICAL VIEW ③ 精神医学テキスト(改定第4版)/南江堂				
成績評価	単元テスト40%(20%×2回) 期末試験 60% 欠席3点、遅刻は1点減点とします。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
本講義では、精神障害の作業療法について各疾患の特徴、各回復段階ごとの症状等の基本を伝えます。精神領域に対応できるのは、作業療法士の強みです。また、小児領域、身体領域、高齢者領域を診る上でもメンタル面がみれることで患者様のリハビリ意欲が変わります。学んだことは身近なことで結びつくことも多いと思います。講義にて学んだ内容を、単元テストにて知識の確認をします。単元テストは40%割合で成績評価に含めますので、事前にテスト勉強をして臨んでください。 後期からは実技も実施していきますので、積極的に実技の練習に取り組むと実習や臨床で必ず役立つと思いますので頑張ってください。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
精神科病院において、病棟作業療法の実施を行う。依存症を中心にその他の疾患の患者様の治療を担当。その経験をいかし、精神科の基礎知識についての講義授業を担当する。					

2025年度後期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅳ(老年期障害Ⅱ)	授業 形態	講義・ 演習 ・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	金曜・2、3限
担当教員	石田 敦子				
授業概要	老年期で行われる介入方法の種類について学び、それぞれのアプローチがどのような対象者にどのような効果をもたらすのかを整理する。また、介入方法を実技を通して体験し、実際に自分でも実施できるように練習する。その後、実際の対象者について、これまで学習した知識や技術を用いながら生活行為の分析、目標設定、プログラム立案を行う。				
学習目標	・高齢者に対する活動・参加に焦点を当てた支援方法を説明し、実施することができる ・近接援助技術を習得し、実施することができる ・高齢者に多い疾患の治療法を説明・実施することができる ・実際の高齢者に対して、プログラムを実施できる				
回数					担当教員
1回目	オリエンテーション 介入① 作業の準備状態を作る p. 118-128				石田 敦子
2回目	介入② ADL・IADLの遂行を支援する p. 128-149				石田 敦子
3回目	介入③ 役割を引き出す、余暇活動の遂行を支援する p. 149-171				石田 敦子
4回目	介入④ 近接援助技術を活用する 回想法 p. 171-174				石田 敦子
5回目	介入⑤ 近接援助技術を活用する 音楽活動 p. 171-174				石田 敦子
6回目	介入⑥ 近接援助技術を活用する 芸術活動 p. 174-179				石田 敦子
7回目	介入⑦ 近接援助技術を活用する バリデーション、その他 p. 174-179				石田 敦子
8回目	パーキンソン病① 概要・評価 身障p. 380～386 評価適時				石田 敦子
9回目	パーキンソン病② 治療(Ⅰ) 身障p. 386～391 評価適時				石田 敦子
10回目	パーキンソン病③ 概要・評価 身障p. 386～391 評価適時				石田 敦子
11回目	パーキンソン病④ プログラム立案1				石田 敦子
12回目	パーキンソン病⑤ プログラム準備2				石田 敦子
13回目	<u>プログラムセッション</u>				石田 敦子
14回目	<u>プログラムセッション</u>				石田 敦子
15回目	加齢性関節疾患① 肩関節周囲炎1 (身障P253～255 病みえ⑩P114～115)				石田 敦子
16回目	加齢性関節疾患② 肩関節周囲炎2 (身障P253～255 病みえ⑩P114～115)				石田 敦子
17回目	加齢性関節疾患③ 変形性関節症1 (身障P256～259 病みえ⑩P400～408)				石田 敦子
18回目	加齢性関節疾患③ 変形性関節症2 (身障P256～259 病みえ⑩P400～408)				石田 敦子
19回目	腰痛症① 腰痛概要 (身障P351～P352)				石田 敦子
20回目	腰痛症② 急性・慢性腰痛における生活指導 (身障P352～355)				石田 敦子
21回目	単元テスト(15回～20回の内容) プログラム実施のオリエンテーション				石田 敦子
22回目	ターミナルケア(身障P467～474)				石田 敦子
23回目	老年期評価項目の復習、前期対象者のICF分類				石田 敦子
24回目	治療的レクリエーション立案①				石田 敦子
25回目	治療的レクリエーション立案②				石田 敦子
26回目	治療的レクリエーション立案③				石田 敦子
27回目	<u>現場での治療実施①</u>				石田 敦子
28回目	<u>現場での治療実施②</u>				石田 敦子
29回目	レポート作成				石田 敦子
30回目	レポート提出、まとめ				石田 敦子
教科書及び 参考書	老年期の作業療法 改定第3版/三輪書店 身体機能作業療法学 第4版/医学書院 リハビリテーション基礎評価学 第2版/羊土社 病気がみえる⑩/メディックメディア				
成績評価	プログラムセッション15% 単元テスト20% レポート15% 期末試験 50% 欠席3点、遅刻は1点減点とします。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
後期の老年期作業療法では、老年期に多い症状や疾患を学習し、その評価の復習と治療法を学んでいきます。1～7回目では老年期の対象者が多く集まる施設などで行われる実践的手法を学んでいきます。その介入をされたとき、自分がどのような気持ちになったのかということをしっかり心に留めておいてください。8回目～14回目はパーキンソン病の学習を行います。重症度に合わせたプログラム立案・実施を行えるよう頑張ってください！15回目～20回目は加齢性の整形外科疾患を学んでいきます。身体障害の教科書や参考書が必要となります。21回目からはそれまでの学習した内容を踏まえながら、前期に訪問したデイサービスモカの利用者に対して治療的なレクリエーションを企画・実践します。楽しみ以外にも治療要素を含めたプログラムを考えてみてくださいね。期末試験は単元テストの範囲外から多く出題します。テスト範囲を具体的に伝えることはしませんので、授業で重要だと思う箇所は随時確認してください。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
高齢者施設での訪問看護ステーションでリハビリチームをまとめ、作業療法士としては本人、家族、他職種と共に活動・参加に焦点を当てたアプローチを実施してきました。最近では愛知県作業療法士会の認知症希望大使とともに委員会、若年性認知症の方の講演会の支援なども行っています。また、4月からはデイサービスをオープンし、休日などに現場で老年期の利用者様の支援を実際に実施する予定です。加齢によって失われる機能だけに注目するのではなく、経験を重ねた年長者に対して尊敬の気持ちで接することができるようコミュニケーションのコツや生活スタイルの着目点などを伝えていきたいと思っています。					

2025年度 後期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	保健医療福祉連携論	授業 形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	金曜・4限
担当教員	杉野潤也、村谷澄哉				
授業概要	保健医療福祉分野において、多職種が連携していくことは大切です。多職種連携は最善の医療福祉を提供するために必要とされるスキルの基盤となる部分のひとつです。多職種連携では①対象者とその家族の意思や希望を知ること、②自らの職種を知ること、③他職種を知ることがスキルの基盤として必要です。「チーム・組織とは何か」という基盤となることから、リハビリテーション領域における応用となるところまでを実践的に学んでいきましょう。				
学習目標	・多職種連携について説明でき、関連領域の国家試験問題が解ける。 ・臨床実習において多職種の専門性を理解して、そこから情報収集ができる。 ・臨床実習において作業療法の専門性を踏まえた上で、多職種との情報共有、連携ができる。				
回数					担当教員
1回目	オリエンテーション、関連領域の国試問題の確認				杉野潤也、村谷澄哉
2回目	症例検討、報告発表 事前準備 1				杉野潤也、村谷澄哉
3回目	症例検討、報告発表 事前準備 2				杉野潤也、村谷澄哉
4回目	症例検討、報告発表 事前準備 3				杉野潤也、村谷澄哉
5回目	症例検討、報告発表 事前準備 4				杉野潤也、村谷澄哉
6回目	症例検討、報告発表 事前準備 5				杉野潤也、村谷澄哉
7回目	症例報告発表 1				杉野潤也、村谷澄哉
8回目	症例報告発表 2				杉野潤也、村谷澄哉
9回目	多職種協働学習 1				杉野潤也、村谷澄哉
10回目	多職種協働学習 2				杉野潤也、村谷澄哉
11回目	多職種協働学習 3				杉野潤也、村谷澄哉
12回目	多職種協働学習 4				杉野潤也、村谷澄哉
13回目	多職種協働学習 5				杉野潤也、村谷澄哉
14回目	多職種協働学習 6				杉野潤也、村谷澄哉
15回目	多職種協働学習 7				杉野潤也、村谷澄哉
教科書及び 参考書	資料プリントあり(随時)				
成績評価	期末テスト60%、レポート・発表40%、欠席減点3、遅刻減点1、授業への姿勢・授業態度				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
授業には看護学生との共同学習の機会が含まれます。皆さんの積極的な授業参加姿勢を期待します。皆さんが行う臨床実習では、多職種との情報共有・収集が必要です。また、作業療法学生として専門性が説明できて、多職種に理解と協力・連携を得ることも必要です。積極的な授業姿勢は、今後の臨床実習に必ず役に立ちます。質問は授業後でも大丈夫です。皆さんの臨床実習が充実したものになるように支援していきます。いつでも相談してください。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
介護老人保健施設、訪問リハビリテーションを中心とする地域リハビリテーション、一般病院等の臨床現場の経験を活かして多職種協働の必要性を伝えていく。(杉野) 精神科病院において、病棟作業療法を担当する。その経験をいかし、職種協働の必要性を伝えていく。(村谷)					

2025年度後期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	義肢装具学Ⅱ	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	土曜1・2限
担当教員	吉井 宏騎				
授業概要	装具療法で用いられる上肢の疾患についての基礎的な知識を学び、それらの目的に対応する装具の名称、機能、種類など分類を、作業療法士が行う基本的なスプリント製作法を実技を通じ体験しながら学習する。				
学習目標	① 作業療法士がスプリントを用いる利点を理解し、自身が実施できる能力を習得する。 ② 各種疾患に対応する装具の目的、名称、種類、機能を理解し国家試験問題が解けるようになる。 ③ 義手の種類、構造、使用方法を知って動作効率を理解し説明し操作できる。 ④ スプリント製作を実施できる。(レポートに表記できる。)				
回数					担当教員
1回目	OTと義肢、装具、目的と分類 (装具学P.162-183病見⑩P.466)				吉井 宏騎
2回目	スプリント演習①3点固定と機能的肢位 (病見⑩P.138 P145) ・レポート課題①				吉井 宏騎
3回目	上肢末梢神経損傷と装具 (装具学P.246-253 病見⑩P.276-279)				吉井 宏騎
4回目	上肢末梢神経損傷と装具				吉井 宏騎
5回目	スプリント演習③コックアップスプリント製作 (装具学P.245)				吉井 宏騎
6回目	スプリント演習③コックアップスプリント製作 ・レポート課題②				吉井 宏騎
7回目	スプリント演習②-1虫様筋カフ製作 (装具学P.250)				吉井 宏騎
8回目	スプリント演習②-2短対立装具製作 (装具学P.249) ・レポート課題③				吉井 宏騎
9回目	リウマチ性疾患と装具 (装具学P.278-288病見⑩P.374-385)				吉井 宏騎
10回目	上肢切断と義手 構造とチェックアウト (装具学P.15-38 P.66-72)				吉井 宏騎
11回目	脊髄損傷と装具 (装具学P.254-273 病見⑩P.249-252)				吉井 宏騎
12回目	熱傷と熱傷による拘縮に対する装具療法 (装具学P.295-307 病見⑩P.306)				吉井 宏騎
13回目	スプリント演習④背側型コックアップスプリント(応用)(装具学P.227-229)				吉井 宏騎
14回目	スプリント演習④背側型コックアップスプリント ・レポート課題④				吉井 宏騎
15回目	まとめ復習とテスト対策				吉井 宏騎
教科書及び参考書	作業療法学ゴールドマスターテキスト義肢装具学(装具学) 病気がみえる11運動器・整形外科(病見⑩)等を使用。また、必要に応じプリントを配布します。				
成績評価	演習レポート4回40%(各10%)、期末試験60% 欠席は3点、遅刻は1点減点とします。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
実際の臨床現場では個々の患者様に機能訓練を行う時間は限られます。そんな際に装具、スプリントを用いるのはとても有効的ですが、製作の経験の有無、設備、環境など様々な要因に影響を受け、実際に携わることができないこともしばしばあります。この授業で演習を通して、スプリントに親しみ、少しでも良いセラピーを患者様に提供できる、ひらめきのヒントになればと思います。スプリント製作演習の授業の際(4回予定)には各回製作レポートを提出、学んだ点、注意点、工夫した点、疑問点、感想等、製作手順を復習していただきます。作業療法の国家試験では、スプリントの型や適応についての問題も多く出題されます。実際に作成することで理解や記憶に残るように、エピソード記憶を活用しましょう。スプリント製作演習は土曜日に2コマ連続で実施を予定しております。確認をして受講するようにしてください。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
整形外科領域でも手の外科やリウマチ科での臨床経験が長いのでそれを生かした治療用装具の実際を踏まえ、基本的な製作演習により、適合に必要な要点を伝える。作業療法士として臨床の場に立った際に役立てる考え方や技術を学んでいただき、スプリント製作を自身の選択肢にさせていただくことができるよう、楽しい体験型の実技により成功体験を得られる授業を行う。					

2025年度後期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	評価実習事前・事後指導	授業形態	講義・演習 	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	月～金曜・1～4限
担当教員	OT専任教員				
授業概要	評価実習では、対象者ならびに指導者と良好な関係を構築し、観察、面接、検査測定の結果から、OTプログラムを立案することができる事が求められます。 有意義な実習となるように基礎知識の確認、評価方法の復習ならびにそれらをレポートとして記載する方法について、臨床思考過程の種類や実践方法について学び、有意義な実習期間となるようにします。また実習終了後に振り返りをし、学んだことを次に活かせるようにフォローアップを行います。				
学習目標	対象者に対して、作業療法の一連の流れのうち「OTプログラム立案」までを実施できる 対人交流を積極的に持ち、良好に保つ態度を取る事ができる 対象者にとって安心感を生み出す事ができる 指導者に対して良好な態度を取る事ができる				
回数					担当教員
1回目	評価実習の流れ、到達目標について				OT教員
2回目	身体機能の作業療法評価・記録方法（脳卒中）				OT教員
3回目	身体機能の作業療法評価・記録方法（脳卒中）				OT教員
4回目	身体機能の作業療法評価・記録方法（高次脳機能）				OT教員
5回目	身体機能の作業療法評価・記録方法（大腿骨頸部骨折）				OT教員
6回目	身体機能の作業療法評価・記録方法（大腿骨頸部骨折）				OT教員
7回目	認知症の作業療法評価・記録方法				OT教員
8回目	精神科の作業療法評価・記録方法(会話からの評価)				OT教員
9回目	精神科の作業療法評価・記録方法(個別作業観察)				OT教員
10回目	精神科の作業療法評価・記録方法(集団分析)				OT教員
11回目	検査測定・実技練習				OT教員
12回目	検査測定・実技練習				OT教員
13回目	検査測定・実技練習				OT教員
14回目	検査測定・実技練習				OT教員
15回目	検査測定・実技練習				OT教員
16回目	検査測定・実技練習				OT教員
17回目	検査測定・実技練習				OT教員
18回目	データの解釈方法、問題点・利点の抽出				OT教員
19回目	問題点の焦点化、目標設定、プログラム立案				OT教員
20回目	精神科（作業実技・観察練習） 身障・小児・高齢者（動作介助・評価練習）				OT教員
21回目	精神科（作業実技・観察練習） 身障・小児・高齢者（動作介助・評価練習）				OT教員
22回目	実習報告会				OT教員
23回目	お礼状の作成				OT教員
教科書及び参考書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編第2版/金原出版株式会社				
成績評価	OSCE(50%)社会的交流技能(30%)実習報告会(20%) 欠席・遅刻は減点 学生心得第5章、第21条第1・2項のルール等を違反している場合には減点とする場合がある				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
OSCEでは対象者を観察し、面接を通してどのような問題点が予測されるか、対象者が希望する作業はどのようなものがあるか聴き取り、その中で必要となる検査測定項目をあげ、適切に実施並びに指導者に報告できるようになって頂きます。 実習は1年間の学びを実際の対象者を通して再度学びなおしたり、授業で別々に学んだ知識を対象者を通して統合していく非常に深い学びの時間となります。その時間を有意義な時間とするには、しっかりと準備して前提知識を蓄える事が大切です。前提知識を十分に蓄えることでバイザーから質問をされた場合にも、返答することが出来るようになり、それらの知識を応用するおもしろさにたどり着くことが出来るようになります。しっかりと準備をして臨んでいきましょう。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
様々な分野で活躍してきた教員が、現場目線で各授業を実技ベースで展開していきます。					